

LGBT法案 国会提出見送り

多様性を認め、寛容な社会を創るとは

5月25日、LGBTなど性的少数者への理解増進を図る法案を巡り、自民党が国会への提出を見送りました。さらなる議論を重ねるとの理由ですが、報道等では事実上の棚上げであると批判の声が上がっています。

寛容な社会を創ること

恋愛対象が同性の人、自分の性別への違和感を持つ人の割合は、全人口の8~10%という調査結果もあります。この法案は、どんな性的指向や性自認を持つ人も、個人として尊重され、多様性を認め、寛容な社会を創る内容となっています。

しかし、「性的指向や性自認を理由とする差別は許されない」との文言が法案に加筆されると、自民党内で否定的な意見が相次ぎ、法案提出が見送られました

「差別は許されないと明記すると、権利を主張する人が出て、裁判があちこちで起こる。」

「人間は生物学上、種の保存をしなければならず、LGBTはそれに背くもの。」

あなたのローンは増えない

ニュージーランド議会で、2013年に同性婚の合法化の議論の際にあったスピーチが世界に大きな反響を与えました。

「愛し合う2人の結婚を認める。ただそれだけだ。私は約束する。法ができて太陽は明日また昇る。そしてあなたのローンは増えない。」